

【吉見町】 校務 DX 計画

教育委員会及び学校が教育 DX を推進 する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を推進する。

1. 統合型校務支援システムの積極的活用の推進

本町の統合型校務支援システム「C4th」は、本町を含めた県内 6 町村にて共同運用をしている。このシステムによって、児童生徒名簿のデジタル化の伴う各種公簿（指導要録・出席簿・健康診断票・学校日誌・保健日誌など）へのデータ入力の省略や、通知表の作成にかかっていた事務負担を大幅に軽減することができたほか、共同調達・運用をしたことで共同体内での職員異動もスムーズに行えるようになった。

今後は、スケジュール管理・共有、職員会議等への活用を推進し、押印の廃止にも取り組んでいく。

2. 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBT などの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツールや、児童生徒・保護者との各種連絡、アンケート調査にクラウドサービスを活用することなどについて調査・研究を行い、導入に向けた検討を行う。

3. ペーパーレス化の推進

現在、町内の学校では保護者や外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があるほか、FAX を利用して連絡を取っているケースがある。これらは、最重要事項の説明や承認、災害時等によって発生した不具合などの一部のケースを除き、ペーパーレス化を図るよう学校や関係機関等対して、慣行の見直しを継続的に働きかけていく。また、そのような中、タブレット端末を活用して連絡帳を廃止した学校や、学校だよりを電子データで配信する学校なども出てきていることから、モデルケースとして共有を図り啓発を行う。